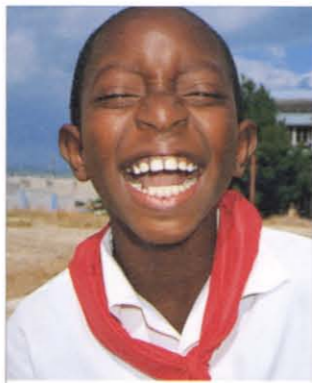




Abgeri, oshel y biamula para mi pais y familia.

この人はハバナの観光ガイドさん。おしゃべりが面白いおじいさんです。こんな感じの人がたくさんいます。こんな出会いも旅の楽しみです。



La felicidad para mi es estudiar aprender a jugar bien en las piscinas.

この子はハバナの州にあるマタンサス美術学校の子です。芸術・音楽を学んでいるから自分を表現に出すのが上手。みんなピュアで嬉しさが溢れています。



La felicidad es estar muy hermosa y sin de nada puede vivir.

マタンサス美術学校でバレエを習っているハーフの子。ラテンの血とアフリカの血が自然に混ざりあうキューバの土壌からは芸術が生まれやすいのでは？

いろんな人たちから「キューバの人は笑顔がいい」と聞かされていたのです。それにフイデル・カストロやチェ・ゲバラが革命をして起こした国であることにも興味がありました。僕らの世代は「革命」とか「時代を変える」ということに格別の興味を抱く世代。そんなわけでキューバを訪れたのです。キューバはアメリカから経済制裁を受けているし、石油もお金もない国。そして社会主義が色濃い国で、今でも配給制度が残っているんです。だれもが「当座ギリギリ食っていきける」という生活を送っているのですが、だれしも深いダメージは受けていなくて、陽気で幸せな人たちがばかり。いくらかの食べ物とお酒があつて、歌を歌えれば「なんとかなるさ！」って感じなのかもしれません。

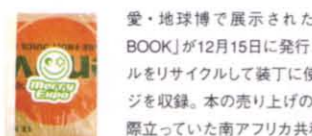
### 裕福ではないけれど、人々の心は豊か。キューバはある種のユートピアなのです。

それでも、チェヤカストロがそうであったように、インテリな人がすごく多いし、みんな礼儀正しい。国は子どもが健康や教育について熱心で、「子どもが正しい教育を受けることで新しい国が作られる」と考えている。バレエや歌などの習い事をやっている子どもも多いです。みんながみんな、平均的にご飯も教育も得られる、だけど裕福ではないという国家なのです。ここには1週間滞在して700人くらいを撮りました。ハバナの中心街にあるアイスクリーム公園や、チェヤカストロが勝利宣言をした革命広場の記念館のテラス、配給所、学校、役所。キューバの人たちは写真を撮られることに特別な思いを抱いていて、みんな撮ってほしいものだから撮り始めると行儀良く

列をつくるのです。そして撮られるのを待たながらも、笑顔の渦が巻き起こる。普通なら「笑って」と言われても笑えないものですよ。これは僕の特異なキャラクターのせいかもしれません。いずれにしても、物質的には豊かではないけれど、人々の心は豊か。キューバはそんなある種のユートピアだと思いました。きっと、キューバのような少し土臭い土地の人のほうが、ピュアで笑顔もいいんじゃないかな。

海外で撮影をスタートして10カ国目に訪れたのがキューバだったのですが、そこでは見えたものがあつたのです。やっぱり「写真は楽しくないとダメだ」とね。ここでは素直な気持ちで撮られて、すごく気持ち良かったんです。いくつかの国々ではどこか構えてしまったり、嫌な思いをすることもありましたけど、そうだった意味でも、ハバナはメリーな土地でしたよ。僕もスペイン語で「ありがと」「笑って」くらいは知っていたけれど、興奮していたし、開き直ってめちゃくちゃにしゃべってましたもん（笑）。それで、またスマイルが巻き起こるんです。そういった意味では「写真は心」なんです。言葉で伝えることももちろん大事ですが、相手をどれくらい思えるか。だから、撮影には心を清めてピュアな気持ちで臨むのです。そうすると、いい被写体呼び込める。生じつかない気持ちで臨むと笑ってくれないし、巡り合ひにも思えない。僕自身がピュアでないといふ神様も「一期一会」のこ褒美をくれなさい。

●水谷孝次 (みずたにこうじ)  
http://www.21merry.net/  
http://www.remus.dti.ne.jp/~mizutani/  
アートディレクター。1999年より笑顔撮影したポスターの展示やボランティアによるゴミ拾いなどを通じて、世界に「Merry(しあわせ)」の輪を広げていく「Merry Project」を開始。愛・地球博にて「Merry EXPO」開催。



愛・地球博で展示された「MERRY EXPO」の集大成「MERRY EXPO BOOK」が12月15日に発行・発売される予定。万博会場に集まったダンボールをリサイクルして装丁に使用。300人以上の笑顔、1,000人以上のメッセージを収録。本の売り上げの一部は、水谷氏が撮影に訪れた中でも、貧困が際立っていた南アフリカ共和国に学校をつくるために役立てられます。



●キューバ共和国 (Republic of Cuba)  
首都: ハバナ  
言語: スペイン語  
人口: 11,308,764人 (世界第70位)  
GDP: 315億9,000万ドル (世界第85位)  
通貨: キューバペソ

僕はどこの国に行っても、撮影を終えたらその周囲のゴミ拾いをする決めてなのですが、革命広場でも僕がゴミ拾いを始めたら、撮影した子どもたちが駆け寄ってきて、一緒にゴミ拾いを始めたのです。これには感動しました。言葉だって通じないし、彼らからすれば僕がどこの国の人なのかわからないでしょうけど、笑顔でコミュニケーションができたわけです。きっと、文化的に発達した土地の人よりも心のコミュニケーションが上手なのだと思います。スマイルとスマイルで世界の人々はつながっていくわけです(水谷氏談)。

メリー度(幸せ度)100%のオーラを放っていて、会った瞬間に「この子は次の本の表紙！」って思いました。この子のメッセージは「世界に希望を」。ピュアですよ。



B/ La esperanza del mundo

## MERRY AROUND THE WORLD 23カ国、2万人の笑顔と出会う旅 [Vol.1 キューバ編]



「Merry(しあわせ)」にあふれた笑顔のポートレートを通じて世界に「Merry」を循環させる水谷孝次氏のライフワーク。連載第一回目の舞台は、物質的な貧しさに反して陽気で豊かな国民性が際立つ社会主義国家、キューバから。